



後藤 卓史

株式会社構造計画研究所

ソフト工学センター

プロジェクト健全性評価指標

プロフィール

1986年株式会社構造計画研究所入社後GUI関連のソフトウェア開発を経て、品質保証部門にてプロセス改善業務に従事。

2000年のISO/IEC9001取得、2005年のISO/IEC14001取得に参画し、以降内部監査の実施と外部監査対応を行う。

1993年より、IFPUG日本会員連絡協議会（後JFPUGに改名）のボードメンバとして、社内外へのFP法普及に努める。

2009年度よりJISA技術委員会標準化部会に委員として参画し、プロジェクト健全性評価指標開発に携わる。

講演概要

プロジェクトはいったん発注されたら、単に発注した会社と請けた会社だけの問題ではなく、多くのステークホルダにとって公私共に大きな影響を受けるものになります。現在、プロセス成熟度（CMMI）やプロセスアセスメント（ISO/IEC15504）などのプロセス改善活動がありますが、それらは主に開発者側のプロセス改善を目的としたものであり、プロジェクト全体にとっては部分的な改善活動といえます。一般的にプロジェクトには多くの人々が関係しており、その中で随時コミュニケーションをとって調整を図っています。

したがって、本当にプロジェクトをうまく進めて成功に至るには、部分的なプロセス改善ではなく、全ステークホルダの利益を考え、どこにもシワ寄せが行くことなく、全員の満足を達成するという全体的な発想に立つことが必要です。

そこで、プロジェクトを全体最適の視点から見て健全化を図ることが重要になります。プロジェクト健全性指標はそのために開発しました。これは特に人と人との関わり合いに重点を置いており、開発段階の適切な場面でチェックリストをもとにプロジェクトの健全性向上を目指します。また、開発終了後には、ステークホルダの満足度も評価します。